

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームきたがた
(ユニット名)	うぐいすユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市北方町大字志久4531-18
記入者名 (管理者)	中野 美紀(計画作成担当者)
記入日	平成 21 年 3 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	朝礼時(申し送り時)に理念の唱和を取り入れていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体で地元の高齢者を対象にした介護予防講演会や家族介護支援事業として講演会を開催し、地元の方の多数の参加があつている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で取り組み、日頃の自分たちのケアを見つめなおすいい機会になっている。自己評価で気づいたところや外部評価で指摘があつた点はスタッフミーティングで話し合い改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の入退居状況や取り組んだ行事、職員が参加した研修、2ヶ月間にあつた主なこと、外部評価で指摘があつた点などを報告し、話し合いを行い助言を頂いている。話し合った内容は会議録に残し、職員に伝えて、意見をサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問や問題点が出てきたときは、市町村へ伺い、意見の交換を行ったり、助言を頂きサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	本人や親戚の方たちと十分話し合いを持ち、成年後見制度を利用していただいたことがある。これからも必要な人には活用できるよう支援をしていきたい。また、これからも研修等で学ぶ機会を持っていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会や全体会議の研修報告等で学ぶ機会を持っている。また、法人の虐待防止委員会に参加をしている。学んだことをスタッフが意識しケアを行っており、日頃からお互いに注意を払い、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、家族や本人にホームの造りやスタッフ、入居者様の様子を見て頂き、契約を行うようにしている。契約書、重要事項説明書に沿って分かりやすい説明に努め、不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解、納得を得るようにしている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が気軽に意見や不満、苦情を出せるような雰囲気作りや関係作りに努めており、入居者からの意見や不満は、他のスタッフや家族に伝え話し合い、早目の解決に努めている。また介護相談員の訪問が4ヶ月に1回あっており、意見を頂き参考にしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の暮らしぶりや健康状態の報告を行っている。遠方のご家族や急ぎの用件は電話で報告をしている。玄関に職員の顔写真を掲示している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってくれるような関係作りに努めており、家族が面会に来られた時に、よく意見を含めたお話を聞いている。受付には意見箱を設置し、第三者苦情相談窓口の掲示をしている。またアンケートを年に1回実施し、家族懇親会にて報告を行い要望、苦情等の意見交換の場を持ち運営に反映させるようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員からの意見や提案があっており、必要に応じて運営者に報告して運営に反映させている。また運営者とスタッフの個人面談もあっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活に合わせた、勤務時間の調整を話し合い行っている。外出や行事の日は基準以上の人員を確保し、安全で楽しい外出や行事が行えるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。異動等があった時は、入居者様への関わりをいつもより密に行い、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じた研修への参加をしており、会議の際、全職員への研修報告を行っている。また、法人では、各資格取得に向けた勉強会も行われている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、スタッフが地域の宅老所の行事へ利用者と一緒に参加をしたり、ホームの行事に参加をしてもらいネットワーク作りに努めている。また情報交換を行ったり、協力を仰いだりしてサービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員個々の状況把握に努め、個人面談の機会を設けるなどしてスタッフのストレス軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、各スタッフの努力を把握し、向上心を持って働けるよう、法人での勉強会の開催やスタッフの研修参加に努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至る前に、本人に必ず会いに行き、話をするなかで、思いや求めていることなどを聴くようにしている。聴いたことをスタッフにも伝え、受けとめるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学の際や、入居申し込みに来られた時に、介護で困っていることや求めていること等を十分に聴いて、家族の抱える思いを受けとめるように努め、事前にスタッフにも伝えていく。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容を十分に聴いて、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設のことなど分かりやすく説明している。ケアマネジャーが同席し対応することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の入居に対する気持ちを確認し、必要に応じて、家族と話し合い定期的な自宅への外泊をしながら馴染んで頂くようにしたり、デイサービスを利用されていた方は、そちらに出向き今までの関係を大切にしながら馴染んで頂くなど、その方に応じた工夫に努めている。	○	必要に応じて、家族や本人と十分に話し合い、ショートステイを利用してもらいながら徐々にホームに馴染んで頂くよう対応していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様と話をしながら、昔のことや体験談等から学ぶところは学び、喜怒哀楽を共感しながら、支えあう関係を築いている。		人生の先輩であることをスタッフがしっかり意識して、尊厳の気持ちを持ち、支えあう関係を大切にできるように今後も取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況報告に努め、御家族の喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の御家族に対する思い、また、御家族の入居者様に対する思いを理解し、より良い関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族以外でも、入居者様の馴染みの方々が、気軽に尋ねて頂く雰囲気作りに努めたり、デイサービスを利用しておられた方であれば、利用日であった日にデイサービスへ馴染みの方達に会いに行っている。又、受診の帰りなど家に立ち寄って頂いたり、買い物や苑外の際に家の近くを通る等、馴染みの場所との関係も途切れないように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係が出来ておられる方もおり、大切にしてもらっている。御自分から関わりを持つことが出来ない方には、職員が関わり、入居者様との会話やレクリエーションに参加し、支え合える様に努めている。		食事のつきわきをテーブルで一緒に行ってもらおうようにしたら、みんなで生き活きとされ、入居者同士の関係にも変化が出てきた。これからも大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり、他施設に移られてからも会いに行くと、涙を流して喜んでくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、表情や言葉に注意し把握ができるよう努めている。分かったことはスタッフ同士で共有できるよう情報交換を行っている。		会議の中でも、サービス担当者会議を行い、入居者の意向等の把握と共有に努めている。今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に本人を訪問し、日々の過ごし方やこれまでの生活歴などを家族や関係者から聞き取るようにしている。入居されてからも本人、家族、知人等の訪問の時に話をお聞きし、より把握ができるよう努めている。		スタッフ全員が情報を共有できるよう、アセスメント用紙に記入し把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人のケースに一日の過ごし方や心身状態、取り組まれたことなど毎日記入し、総合的な把握に努めている。急を要することは、スタッフが出勤時必ず目を通すようになっている申し送りノートで把握できるようになっている。		個人のケアチェック表を作成し、総合的な把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	かかりつけ医師からの照会や担当者がより密に様子を見たいなどのケアチェック表からの課題、本人や家族からの日頃の要望等、関係者からのそれぞれの意見やアイデアをもとに介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヵ月ごとの見直しを行っているが、状態に変化が生じた場合は本人、家族、関係者と話し合っ見直しを行い、現状に合った計画作成に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースに、日々の様子や食事・水分量、健康チェック、ケアプランに沿ったケアの実践、気づきなどを記入し、情報を共有している。実践の結果を元に、新たなケアの実践を盛り込んだ介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の元民生委員の方を中心に活動されているボランティアグループの方が週に1回程訪問され、顔見知りの入居者もおられ、お話をされながら笑顔が見られている。また、法人での行事のときはボランティアの歌や踊りを見て楽しまれている。避難訓練時は消防署や地元区長、役員の方の指導、立会い支援があっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性を聞いて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。また、地元宅老所の行事に参加させてもらったりしている。	○	地元温泉などの利用もしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されており、市内の情報や支援に関する情報があり協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を続けられるように話し合っている。受診が困難なときは、往診をお願いしてもらい、これまでと変わらない医療機関を受けられるように支援している。受診や往診が出来ない場合は、看護師が代行しており、受診結果を報告している。複数の医療機関の往診があっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全スタッフは、入居者お一人おひとりの誇りやプライバシーを尊重することを根底におき接するようになっている。記録物は事務所に保管し、守秘義務には細心の注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者様が思いや希望を表せるように働きかけたり、その方にあつた説明を行っている。また、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを行い、一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援し、理美容は入居者様や御家族の希望に沿って行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やつぎ分け、食器洗いやテーブル拭き等、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御本人が望む物を一人ひとりの状況に合わせて楽しんで頂けるよう支援している。	○ 喫茶店のようにメニュー表を用意して提供したりしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう努め、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の体調や年齢などに応じて、昼食後に1時間ほどベッドで休んでもらったりしている。就寝もその方の体調や希望に応じて休んでもらっている。気持ちよく休んでもらうため、毛布を日に干したりしている。寝付かれない時には、しばらく寄り添ったり、暖かい飲み物を提供し、安心してもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を發揮して頂き、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、池の周りを散歩したり、玄関先の花壇を見に出たり、母体やデイサービスに遊びに行ったり、買い物に出かけたり希望に沿ってたびたび行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣や桜見学、紅葉見学など季節を感じていただけるような外出を、ほとんどの入居者に参加してもらい行っている。またレストランでお茶タイムを持ったり、大型スーパーへ出向いて楽しんでもらったりしている。ご家族と米寿のお祝いのための外出などもあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望にそい、電話や手紙のやり取りが出来るように支援をしている。	○	こちらからも手紙を出す支援を行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人等馴染みの方達が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の研修報告や法人の身体拘束廃止委員会の勉強会、実践者研修などで知識を身に付け、会議などで話し合いながら、日頃のケアをスタッフ間で振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や全スタッフが、実践者研修などで学び、鍵を掛けることの弊害を理解しており、日中は鍵を掛けず、出て行かれる時は様子を見守ったり、一緒に気分転換に散歩したり、安全面に気をつけながら自由に過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、一緒に掃除や食事の準備、レクリエーションなどを行いながら状態の把握や見守りを行っている。夜間は時間毎に訪室して入居者の状態を確認し安全に配慮している。またプライバシーにも十分配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや湿布などを居室に所持している方もおられ、危ないからと取り除くのではなく、スタッフが注意を払いながらなるべく使い続けて頂く支援を行っており、その方に応じた対応に配慮している。危険物は手の届かない所や鍵を掛けしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の研修会に参加したり、法人の事故防止対策委員会の勉強会などで知識を学び、入居者一人ひとりの状態を把握し、想定される危険を検討しながら事故防止に努めている。転倒のリスクの高い入居者には必ず付き添うなど統一したケアを行っている。		これからも事故報告書やヒヤリハットについて、会議の場などで全スタッフで対応策を話し合い、事故の防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に骨折時の対応や救急蘇生法、AEDの使用方法などの実践をまじえた研修に参加している。また緊急時対応マニュアルがあり、スタッフは日頃から学んでいる。	○	グループホーム独自でも勉強会を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの元、避難訓練があっており、入居者の避難方法や消火器の使い方、避難誘導時の注意点などの指導があっており、地元区長や役員の方の協力もあっている。また法人全体の連絡網があり、通報訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクについて、日々スタッフ間で話し合い把握に努めており、畑に出たり、自分から何処かに行こうとされる時など、見守ったり、付き添ったりして思いのままに過ごしてもらえることを大切にしている。リスクについては家族とよく話し合い理解をされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行っており、食事、排泄、睡眠状態など日々の生活の中での変化を見逃さないようにしている。変化に気づいた時は看護師にすぐに報告し、医師の指示を仰ぐなど対応している。スタッフ間でも口頭で伝えたり、すぐに申し送りノートに書いて情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を、個人のケースに綴じており、いつでも読めるようになっており理解している。また薬が変わったときは、看護師が申し送りノートに書いている。薬の準備は、看護師が個人の袋に準備し、スタッフが二重のチェックをしており、服薬は本人を確認しきちんと飲まれたことを確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、水分を多めにとってもらう工夫をしたり、食事やおやつに気を配り、身体を動かすレクや散歩に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、その方により見守りを行ったり、介助を行ったりしている。義歯は、每晚洗浄剤につけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士が献立を立てており、カロリーやバランスの管理ができています。その方やその時の状態により、二炊きや細かくして提供しており、皆様ほぼ全量食べられている。食事や水分の摂取量は、個人のケースに毎日記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に感染症予防対策委員会が設置されており、ホームにもメンバーがおり、マニュアルや取り決めによる指示があり、実行している。また週に1回感染症予防のための掃除日を設け、リネン交換、毛布干し、冷蔵庫掃除、畳拭き、消毒、上履き洗い等を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため毎晩、布巾やまな板のハイター消毒を行い、調理器具は日に干して衛生管理に努めている。食材は毎日、使用する分がそれぞれの業者より届いており、また畑の新鮮な野菜を使用して入居者も喜ばれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には、季節の花が植えてあり、入口に手作りの看板を掲示し、ベンチを置きくつろげるようになっている。また玄関内には入居者と生けた花や一緒に作った小物が飾っており、安心して出入りができる雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を準備する音やご飯の炊ける匂い、なじみのある音楽など居心地よく過ごせる工夫をしている。また入居者と一緒に雛人形を飾ったり、テーブルに季節の花を飾ったりして一緒に季節感を楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の間で一人で過ごしたり、気の合った入居者様同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	仏壇やテーブル、写真を持参される等、使い慣れた物や好 みを活かして、御本人が居心地よく過ごせる様な工夫をして いる。		これからも本人や家族と話し合い工夫をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	掃除機を掛ける時は、共用空間、居室とも必ず換気を行って いる。10時と15時に温度と湿度の記録を毎日行っており、 外気温と大きな差が生じないようにしている。また加湿器を使 用し湿度にも注意をし、入居者の状態によっても衣類をは おってもらうなど配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	建物内はシルバーカーなどでも自由に移動できるようにバリ アフリーになっており、常に整理整頓ができています。廊下やト イレには手すりを設置し、自分で安全に移動やトイレなどが できるように工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室には、それぞれ手造りの表札があり、居室の場所が分か らない方には、目印を付ける等、混乱や失敗を防ぎ、自立し て暮らせるように工夫している。	○	その方に応じたもっと分かりやすい方法などを話し合い工 夫をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ウッドデッキや玄関で、日光浴をしたり、歌を歌って、過ごし ておられる。また、畑や花壇に水をやり、野菜の収穫を楽し んでおられる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今まで以上に、入居者様の「出来る事」「出来ない事」を見極め、より一層、活気のある生活・生きがいを感じる事が出来る生活＝入居者様一人ひとりが「今」必要とされているんだ・・・と実感できる生活の場を提供できるよう、全スタッフが一丸となり取り組んでいきます。